

## 令和5年度 総合政策学部 学校推薦型選抜

### 【出題意図】

総合政策学部は、多角的な視点から社会現象をまなざし、そこでみえてくる社会現象の矛盾を認識しながら、学生自身の関心事を深めることが求められている。このことを意識し、本問題は、世界自然遺産となっている白神山地をとりあげ、経済・観光、自然保護、地域文化の観点からみえてくる諸矛盾を示し、自身の考えを問うという構成になっている。

この問題では特に、さまざまな観点からの異なる意見を整理する能力（AP①の読解力）と、自分の意見を論理的に示す論理的思考能力（特に AP③の他者の考えを理解し、自分の考えを表現する能力）を問うている。

### 【解答例】

問1 世界自然遺産が地域社会にもたらすメリットは、当該の地域社会に観光客が訪れ、地域経済が活性化することである。具体的な数値を挙げれば、観光客は世界自然遺産登録時（1993年）に比べ、最も多い時（2000年代）で4～5倍にまで増えた。また、青森県・秋田県の観光消費額は、登録前の1990年と登録後の1995年を比較すると3倍強も増えている。この他のメリットとして、地元住民に観光ガイドなどの仕事ができることもおおい。

問2 3.19 倍

問3 白神山地を生業の場としてきたマタギは、これまで白神山地の核心地域の自然環境を破壊せずに、森の恵みを得てきた。森の恵みとして挙げられているのは、獣（クマ、テン）や魚（アユ）、山菜やキノコなどである。

問4 観光マタギと伝承マタギは似て非なるものである。伝承マタギは、山神信仰をはじめ、マタギの戒律や規範、さらにはさまざまな伝説などを介して自然を認識／理解し、自然を大きく破壊することなく生業をしてきた。それに比べ、観光マタギは、観光客ありきのガイド業となった。すなわち、自然相手ではなく、観光客（大衆的な）を相手としているために、現代に見合った合理的な価値基準に合わせざるをえなくなったといえる。

問5 白神山地が世界自然遺産になったことで、地域社会にはメリットとデメリットが生じた。メリットは、観光客の増加、地域経済の活性化、仕事の創出などである。一方、デメリットは、観光客のマナーの悪さによる守るべき自然の環境悪化、これまで自然環境と共生的な関係を維持してきた地域文化（マタギ文化）の喪失である。

このようにメリット・デメリットを整理し、今後の世界自然遺産にかかわる地域政策で私が最も重視すべき点を考えてみる。私が自然を守る政策を打ち出すうえで大事だと考えたのは、自然環境と共生的な関係をもってきた地域文化との調和を図ることである。白神山地の世界自然遺産登録の例では、世界に誇る原生的なブナ林を保護するために、白神山地と地域文化のつながりを断ち切ってしまった。もし、マタギの方々が述べるように、白神山地がマタギの生業活動によって維持されてきた側面があるとすれば、自然環境を守るためにそれを維持してきた地域文化を喪失してしまうのはおおきな矛盾である。

世界自然遺産にかかわるこのような矛盾を回避するには、これまで世界自然遺産の対象地と深く付き合い合ってきた地域の人びとを中心に据えた政策論議の場を設けるべきであろう。自然環境の専門家や環境NPO、地方自治体などと並び、地元住民の自然との共生の知識も重要であるということを認識し、世界自然遺産の保全方針を慎重に決めるべきだと考える。